

2025 年度 学校法人 三幸学園 札幌医療秘書福祉 & IT 専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 水尾 有菜

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

重点目標

1) 生徒指導について

□ 業界理解

- ・企業連携科目のみならず、業界の理解を深めるために企業講話を実施。
- ・インプットした内容をアウトプットする機会を実施。（研究発表会・シミュレーション大会・介護技術コンテスト）

□ 退学防止

- ・担任以外の教員も面談に入り、相談しやすい環境作りの強化。
- ・スクールカウンセラーを対面/オンライン/文字 から選択できるように、学習・精神面のフォローアップを強化。
- ・ハイフレックス授業の継続、通学が困難な学生に対して単位修得の機会を与えた。
- ・学科会議を毎週行い各教員同士での情報共有対策を意識した。

□ 企業連携

- ・学校にて就職説明会を実施する等、来校いただき、学生の様子を実際にご覧いただく機会を設けている。
- ・行事には、各業界の人事担当や実習担当の方を審査員として招待し、現場の声を学生に反映。

2) 教職員に対して

□ 業界理解

全教員参加の会議にて昨今の業界が求める人物像の変化など理解を深めるために勉強会を実施。

□授業、生徒指導力向上

- ・新入教職員研修を実施。（各学科の説明、理念の浸透）
- ・学生が実施する授業満足度アンケート向上のための研修を実施した。
- ・教職員同士の授業見学や姉妹校含む授業アンケート上位者の「授業づくりのポイント」を知る機会を設けた。
- ・外部講師を招いて、現代の子どもたちへの授業展開の手法を学ぶ研修を行った。

3)卒業生徒の繋がりについて

- ・実習、就職ガイダンスや行事の来賓に卒業生に協力してもらう場面を増やし、卒業生が学校で知識を学びなおすリスクールを開催し多くの卒業生と関わる場を設けた。
- ・各業界で活躍している卒業生をオープンキャンパスに呼び、各業界を目指している高校生と話す場面を創った。
- ・同窓会の活動として現場で働く卒業生と在校生で一般の皆様に応じた技術を提供するイベントを実施した。
- ・単年同窓会を毎年の恒例とし実施。2025年度卒業生にも既に日程を告知している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

・教職員に対し、教育理念・人材育成像などは、全体場で何度も確認しているため、浸透しているように感じる。
生徒には年度初めの行事やホームルームで伝える工夫はしているが、日々の継続した発信・確認が必要である。

② 今後の改善方策

1)生徒に向けて

・年度初めだけではなく「どのような人材が社会で求められるか」自分事として理解させる機会を創る。（未来デザインプログラム・業界理解/HR 授業内で実施）
・新入生オリエンテーションの内容を定期的に振り返り目指す人物像について触れる機会を繰り返し実施する。

2)保護者に向けて

・オープンキャンパス保護者会時に「学校理念・目的・育成人材像」についてお伝えし、賛同いただく。
・対面で保護者会を実施し、伝える内容も精査され次年度に向けての土台をつくることができた。

③ 特記事項

・昨年に引き続き、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーから、育成人材像が明確化され、そのゴールのための教育課程を編成することができた。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

・チームズチャットやオンライン・クラスルーム等便利なツールが増え、いつでもどこでも簡単に業務ができるようになった分、やり取りする情報量が増え対応に時間を割かれるため情報交換内容の見直しも必要。

・ワークバランスの見直しが必要である。また、本来大切にしないといけない「人と人との繋がり」が希薄になってしまう恐れがある。

② 今後の改善方策

・新入教職員を始め、年に3回実施している全体会議の場で、学ぶ機会を継続して設けていく。

・引き続き業務の効率化を意識し、残業時間が減らせるよう勧めていく。

・残業する基準を明確にして、職員へ浸透させていく。

③ 特記事項

・残業時間の改善をする為に職員会議にて意見交換を行い、取り組む内容を全体で決めて実施。前年度よりも残業平均時間が減少し改善された。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・最先端の情報や今必要とされているニーズを生徒へ伝える機会が不足している。
- ・医療現場においては最新の現場を知る機会が少ないため機会を増やしたい。

② 今後の改善方策

- ・現場実習に行く前の早い段階で“病院”で働くイメージをつけられるよう見学の機会を設ける。
また、授業内容について卒業生や現場の方の講話を取り入れ、授業展開の工夫を図る。
- ・カリキュラム変更・シラバス公開に伴い、多くの業界の方に授業内容を見ていただける環境は整っているため、意見をいただける関係構築に注力していく。
- ・実習以外でも現場に足を運ばせていただき、関連業界との繋がりを強化するとともにいただいた情報を、全教員へ共有し生徒指導に役立てていく。
- ・医療秘書科の職業講話、医療事務科の病院見学も継続して実施する。
- ・医療業界経験者が授業を実施できる環境づくりの実現

③ 特記事項

- ・年に2回学生に授業アンケートを実施し、課題が残る教職員には教科チーフが面談し、授業力向上のアドバイスの場を設けている。また、新入教職員には前期途中に面談を実施し、授業に関する不安を取り除く工夫を行った。
- ・医療秘書科の美容医療コース設立に伴い、美容クリニックの院長/看護師の方に授業を実施していただく等 現場の最新の情報を掴める工夫を行っている。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率低減の為の施策。
- ・引き続き教員の入れ替えがあっても安定した就職指導ができるよう基盤を作る必要がある。
- ・昨今、心身・精神不調の退学者が増えており、退学率の低減が最重要課題である。
- ・自宅での学習習慣の少ない生徒が多く、自発的な勉強方法指導と、資格取得へのモチベーションの維持が必要と感じる。
- ・検定取得率の向上を図っているが、年々難しくなっている。

② 今後の改善方策

- ・定期的に職員会議にて就職指導（就職先とのマッチング、面接練習方法）について勉強会を実施する。
- ・1つのクラスに対して、複数人で学科業務を行うようにしていく。生徒から担任がいつでも相談を受けられる環境作りをしていく。
- ・精神的に弱い学生が増えているため、教職員が対応方法を研修し接していくとともに、実習先にも理解を求め共育していく環境を作っていく。
- ・卒業生専用の公式LINE運用を行い卒業後の把握や就職支援等を同窓会担当者よりアプローチをしていく。
- ・職業経験の無い担任メンバーに向けて勉強できる機会や資格取得の機会を設けて、授業と業界の理解をしていく。
- ・検定取得率の向上のため、検定サポート（補講含む）の充実化を図り、取得率向上を引き続き目指す。
- ・学生の第3の居場所（サードプレイス）を設け、学年問わず他学科の交流機会、場所を増やしていく。
- ・教室での授業に抵抗感や問題を抱えている学生に対し、ハイフレックス授業を継続する。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

- ・在校生に対しての支援体制は整備されているが、卒業生や中途退学者への支援は不十分である。
- ・就職をゴールと設定している状況が見受けられる。あくまでもスタートと捉え、長期就労の支援を整備していく。
- また卒業後の相談に関してもできるように、開かれた学校作りが必要である。

② 今後の改善方策

学生

- ・学科を超えたボランティア参加の紹介をし、誰もがボランティア活動ができる機会を設け、積極的に支援していく。
- ・教室に入れない、集団に馴染むのが辛いといった学生に対して、クラス以外の居場所を作り、休めるスペースを作る。
- ・2024年度から「キャリア探求活動」という名目で、所属している職業に対して目標喪失した学生を違う業界への訪問やボランティア活動を通じて、改めて目標を作り、退学を防止する制度を配置
- ・24 時間対応可能なオンラインカウンセリング「cotree」の継続をする。
- ・アプリ上で全国の就職情報を取得できるように新しいシステムに変更している。全国の姉妹校求人も含めて、どこにいても確認できる環境を整えた。

卒業生

- ・卒業生との繋がりを強化していくために、同窓会を巻き込んだ活動を強化するとともに、ホームカミングイベントの実施など卒業生が卒業後も立ち寄れる仕組みづくりを行う。
- ・同窓会「Link. LINE」という連絡ツールを活かし、定期的な発信を行い、繋がりが途絶えないようにしていく。

保護者

- ・信頼関係を築き上げるために、年度初めに新入生保護者会を引き続き実施し、運営方針等を伝え、改めて社会人育成の場としての指導にご理解いただき、保護者からも連絡をいただきやすい状況を作る。また、退学防止のために必要な学生に関しては早い段階で保護者へ連絡し、場合によっては三者面談を実施する。

・保護者との連絡情報配信ツールとして「スクレ」を導入したが、活用方法が行事関連の内容が中心のため日々各担当が頻繁に保護者と連携が取りやすいように活用方法を考える。

③ 特記事項

・2025 年度より保護者との連絡情報配信ツール「スクレ」を導入。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・防災に対して生徒の意識を向上させていく必要がある。
- ・校内の教室環境が整備されつつあるので、それを最大限に生かし、教育成果に繋げていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・5月中旬に避難訓練を実施。
- ・FREEWi-Fi、各教室のプロジェクター設置等環境が整ったため、オンライン授業や実践的な授業展開ができるようシラバスやカリキュラムを一層見直していく。

③ 特記事項

- ・通信状況や設備等での課題は残されているが、授業が円滑に進めるよう引き続き確認をしていく。
※通信状況の改善として、2026年にネットワーク工事が行われる。

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

昨年同様、18歳人口が減少している中で学生募集に苦戦しているのが現状ではあるが、2025年度は入学者が増加した。いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、引き続き、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算・収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・福祉・保育系の学生は、ボランティアも充実しており、地域貢献に繋がっているが、医療系の学生が参加しやすいボランティア募集が少ないため情報収集に努める。

② 今後の改善方策

・学科に捉われず、ボランティア活動を実施中。昨年に続き北海道マラソンスタッフや赤い羽根共同募金などに参加している。今後も、施設や医療機関から情報共有をして頂き、生徒へ情報を開示していく。

③ 特記事項

・2025 年度は医療秘書科の委託訓練生を受け入れた。
 ・校内の敷地内にキッチンカーを呼び、売上の一部が社会福祉協議会に寄付できるようにしている

(11)国際交流

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

1～2名程度の受け入れ経験しかなかったため、そもそもの体制の強化が必要。

② 今後の改善方策

・2026年4月から国際ビジネス科設立に伴い、今後留学生数が増加するため VISA 等の申請など入学の
為の体制を整える必要がある。

・グループ会社の日本教育クリエイトにも介入してもらい、就職支援を行う予定。

③ 特記事項

・留学生のみの国際ビジネス科設立に伴い、日本語教員の採用や授業環境の設備を行った。